

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は常に名札裏に書かれている法人理念、コンセプトを常に確認している。理念、目標は、毎日朝礼にて全員で唱和し確認するとともに、意識して取り組むようにしている。	法人の理念を基に毎年スタッフで話し合い、ホームの方針を決定している。今年度は「ここを我が家と思って頂けるような環境づくりをします。」「ゆったりとした空間の中で自分らしく安心して暮らせるように援助します。」の二つを掲げている。方針は来訪者に分るように玄関に掲げられているほか、年度初めに家族へ送付されている。理念・方針にそぐわない対応が見られた場合は管理者がその場で指導するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアの来訪がある。昨年に比べ少しづつボランティアの方も増えている。また、施設周辺に散歩に出掛けると、声を掛けてくれるご近所の方も増えて来ている。今後も良い関係作りが継続出来るよう努めて行きたい。	自治会に加入し様々な活動に参加したい旨を区に伝えているが、区の方針もあり時間をかけて区への加入を進めていこうという意向である。保育園児の来訪が月に2回ほどあり、今年度は小学生との交流も行われた。ホームの行事案内などは周辺地域に配布している。また、災害時などはホームの備蓄の使用や宿泊も可能であることを伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献できるよう、地域活動などの参加機会を作って行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みや普段の様子など報告し、意見交換を行っている。その時に出た意見や要望、質問等は会議内にて回答、話し合いを行い、その内容は会議議事録で周知し今後のサービス向上に活かしている。	定期的に行っており、家族、区長、民生委員、広域連合職員、町役場職員、介護相談員、地域包括支援センター職員、ホームスタッフが参加し、活発な会議が行われている。温泉利用や地域防災への参加などの提案があり、今年度、ホームとしても取り組んだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、介護認定調査等の機会に、市町村職員の方と情報交換を行ったりしている。また必要時は、互いに連携を取り合い協力できる体制をとっている。	随時、町社会福祉課に訪問し報告、相談をしている。また介護認定更新時は調査員が来訪し、スタッフが対応している。ケアマネージャー会議や市の研修会、諏訪広域の学習会などへはできる限り参加するようにしている。今年度は管理者が講師となり認知症サポーター講座を5回実施した。来年度は地域住民へ参加を呼びかける予定である。介護相談員が毎月来訪し、報告を受け、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、法人の考え方を伝えながら、禁止行為やその理由について会議にて話しをしている。施錠については以前に引き続き玄関の施錠は必要と考える。今後も身体拘束や施錠しないケアについて考えて行きたい。	安全や防犯面から窓と玄関の施錠はしているが、日中は窓の鍵は開錠している。また以前転倒された方にセンサーマットを夜間のみ使用しているが、家族にも了承を得ている。外出傾向の強い方には一緒に外に付き添うことで落ち着いていただいている。年1回身体拘束に関する研修が法人であり、スタッフ会議の中でも随時話し合いを行っている。	

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については定期的に勉強会を開催したり、そのような話が聞かれた時はその都度話しをしている。日常での職員の対応について常に注意を払い、決して当施設で起こる事のないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成人後見人制度については定期的に勉強会を開催している。今後、それらを活用出来るように、学びながら考える場を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には、入居前に十分な説明を行い、ご利用者、ご家族の不安な点や疑問点などを確認し、回答しながら同意を得ている。また、入所後の不明な点、不安な事等は都度対応し、納得出来るまでお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族共に遠慮なく話せる環境作りに努めています。ご家族の面会時には、現在の状態や近況報告等を行い、ご家族の要望や意見にしっかり耳を傾けています。運営推進会議でも自由に発言頂き運営に活かしている。	自分の意見を言葉で表出できない方が半数以上おり、表情や態度、普段との違いや生活歴、家族からの情報から意見・要望を汲み取るようにしている。家族の面会はまちまちであり、週1回くる方もいれば、2ヶ月に1回来られる方もいる。家族には面会時や年2回開催の家族会の折にお話しするようにしており、その際意見をいただき対応するようにしている。ホームの「ゆかり便り」と利用者一人ひとりの身体状況・生活の様子を毎月家族へ送付しており、家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行なわれる全体会議や各棟のカンファレンス等で意見交換を行い、その時出た意見や提案、問題点を明確にし、運営に反映させている。	毎月中旬に全体会議があり、その後に各ユニット会議がある。各委員会からの報告や運営推進会議の報告、家族からの意見の報告、利用者についての検討などを行っている。管理者が議事進行を行い、活発な会議になるように工夫している。年2回目標シートの提出があり、それを基に管理者との面談を少なくとも年2回は行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを作成してもらい、毎月、その目標に対しての自己評価をしてもらっている。それらをチェックし適時、確認、面談を行ないながらアドバイスを行い、本人がやりがいをもちながら働きそれが向上心に繋がるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修に誰もが参加出来るような体制を取ったり、会議でも勉強会を開催している。また、介護雇用プログラムを利用し、仕事をしながら資格を取得する制度の活用もしている。		

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月行われる法人内のグループホーム会議にて他の施設と情報交換、問題点の共有等を行っている。問題点については、全施設で検討を行うなど常に質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面接の時に、ご本人の身体面、生活面、希望や要望等情報収集を行い、入居後本人のその思いに添えるようなケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に施設の見学をかね直接お話しを伺いながら、ご家族の思いをしっかり受け止めている。また、いつでもご家族の不安や要望にしっかり耳を傾け信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずご本人とご家族の思いや考えを聞きながら、その時に必要な支援、必要としている支援を考え見極めるようにしている。また、いろいろな支援やサービスが行なえるよう常に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である方々という尊敬の意はいつも心に留めながら、同じ目線に立ち対応している。そして、出来る限りそばに寄り添い話しをしたり行為を行ったり、今の思いに共感しながら良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃のお身体の様子、生活の様子について毎月のお便りにてご家族にお知らせすると共に、面会時にも直接お話しするようにしている施設での行事にはご家族もお誘いし、共に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊等特に制限はない為、いつどなたが来てもご本人と触れ合えるようにしている。また、どなたでも遠慮せずに気兼ねなく来て頂けるように雰囲気作りや職員の態度にも気を配っている。	家族以外の知人の来訪は随時あり、一緒にお茶を飲んだり、居室でパターゴルフをされる方もいる。電話がかかってくることも多くあり、随時繋いでいる。希望があれば馴染みの場所へ行くことも可能で、週に1、2回買い物へ行く際に、馴染みの店へ立ち寄ることもある。家族対応で一時帰宅される方もいる。	

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話やコミュニケーションを大切にしている。またその環境づくりに努めると共に、ご利用者同士助け合ったり支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今までと変わらぬ生活が送れ継続できるよう、他事業所へ情報提供をしっかりと行いながら、ご家族の思いや悩みを聞いたり相談等にも対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、ご利用者の思いに耳を傾け、現在どんな事を感じ思っているのか把握できるよう努めている。また、自分から訴える事の少ない方からは、表情や行動からご本人の立場に立って考えるようにしている。	自分の意見を言葉で表出できない方が半数以上いるが、表情・しぐさ・態度・生活歴・今までのスタッフの関わりなどから意向を把握するように努めている。また利用者がふとつぶやいた言葉は会議などで共有し、その真意を探り、支援に活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、また今まで関わりのあった職種の方々から情報を集め、多方面からの状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや過ごし方を把握し、それを会議等を出し合い全職員が共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の普段の様子、話しなどをご家族にお伝えしながら、ご家族の意向や考えも考慮しながら相談しながらケアに反映された介護計画を作成している。	スタッフは1～2名の利用者を担当しており、毎月のユニット会議にてモニタリングを実施している。計画の更新は基本的には半年毎で、状態変化が見られた場合は随時変更している。介護計画の立案前と立案後に家族に内容を説明し確認していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者のありのままの様子を介護記録に毎日記入しており、業務開始前に職員は個々に確認し、さらに申し送りをして情報の共有を行っている。また、その記録をもとに実践や介護計画の見直しを行っている。		

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のご希望は出来るだけその時に実施できるよう努めている。また、その時々ニーズに対しても対応出来るような体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の職員、包括支援センター、民生委員、介護相談員等関係職員の方々とは、運営推進会議などで情報交換を行い施設への理解や協力を頂いている。また、様々なボランティアの方に定期的に来所頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診はご家族対応であるが、緊急時は職員が付き添い受診するようにしている。また必要時は、主治医に情報を提供し常に連携を取っている。	利用前からのかかりつけ医を継続している方が数名いる。職員対応で受診する場合は看護師が付き添い、受診後は家族への報告とスタッフへの申し送りをしている。看護師が常駐しているため医療との連携がとれており、依頼すると歯科往診や皮膚科往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な面は必ず看護職員に報告し指示を仰いで適切な対応が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず書面にて情報提供を作成し、看護職員が送りを行っている。入院中は医療機関との連絡を密に取りながら、回復状況を確認すると共に、早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望を大切にしていきたいと思っている。希望がありその時が近づいた時には、かかりつけ医とご家族と相談を行いながら方針を決める。また、重度化した場合における指針は入居契約時にもお話しているが、その対象となった際にはもう一度説明し同意を得るようにしている。	昨年11月に家族との十分な話し合いを行い、ホームでの看取りを行った。病院から戻られる前にスタッフ間で話し合いや勉強会をし、特にスタッフの不安を軽減してから受け入れた。静かな最期を迎えられ、家族から感謝の言葉をいただいた。法人内での看取りの学習会開催について管理者から要望を出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で行う研修会に参加したり、施設でも定期的に勉強会を開催している。また、緊急時対応マニュアルを作成してあり全職員が周知するようにしている。		

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、ミニ防災訓練を開催している。また、6月、11月には総合防災訓練を、8月には地震想定訓練を全員で行っている。災害時の備蓄品も備えており、何か起こった時には地域の方々の協力ができるような体制である事を訴えている。	総合防災訓練と地震想定訓練には利用者も参加している。毎月のミニ防災訓練ではマニュアルに基づき夜間想定訓練を実施した。災害伝言ダイヤルの訓練も実施している。運営推進会議や近所の住民には声掛けしており、何かあれば協力するとの言葉をいただいている。来年度は防災訓練に参加していただけるように地区の方に働きかけていきたいという意向もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、その方の思いや気持ちに寄り添い、決して誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けや対応をしている。	基本的には苗字に「さん」付けて呼んでいるが、本人の希望に沿い名前に「さん」付けて呼んでいる方もいる。入浴や排泄時など同性介助を希望するときは同性で行うようにしている。法人内で接遇に関する研修が年3回程あり、新入職員・中途入職者・希望職員が参加し、人権意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自分で決められるような働きかけをしたり、なかなか自分では決められない方には、その方が選択しやすいような言葉掛けを行うようにし自己決定をして頂ける様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の気持ちを大切にし、自分のペースで好きな時に好きな時間を過ごせるような体制を取っている。希望があれば、その事を優先し行えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい洋服はご自分で選び着て頂くようにしている。又、自分で選べない方は職員と一緒に決めている。訪問理容で髪をカットしたり、ハンドエステをしたり、イベントの時には化粧をしたり普段からおしゃれを楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたい物を聞きながら、又、季節を感じられる食材を使いメニューを決めている。食事準備や片付けは決して強制せず、ご利用者が行いたい時に一緒に行うようにしている。食事中は、音楽を流しながら、ゆったりと会話を楽しみながら食事が出来るようにしている。	ほとんどのの方が常食を自力で摂取されている。献立はスタッフの食事当番が当日利用者に希望を聞きながら立て、おすそ分けの食材や畑で採れた野菜も使用している。ホールで行う焼きそば作りやおにぎり作りなどに利用者が積極的に参加している。メニューはユニット毎に異なり、一汁五菜で、ボリュームや見た目も楽しめる食事であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事が摂れる様に、又、一人ひとりの状態を考え食べる量も加減している。一日の水分量はしっかり確保できるように、こまめに提供している。		

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者全員が本人の能力に応じた口腔ケアを行えるようにしている。義歯洗浄も定期的に行うようにし、口腔内が常に清潔であるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けながら一人ひとりの排泄パターンを確認している。オムツ使用していても、ほとんど尿意がない方でもトイレに行き座るようにしている。また、オムツ外しに向けた支援も継続して行っている。	自立の方が数名で、その他の方は見守りや衣類の上げ下げなど介助が必要である。自立の方以外はリハビリパンツやパットを使用しているが、オムツ外しへの取り組みに積極的で、これまでに2名の方が外れ、近いうちに1名の方が外れそうである。ホール等で失敗した場合は本人の自尊心に配慮し、さりげなくトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘にならないように心掛けている。乳製品を摂ったり、入浴時腹部のマッサージをするなど定期的に行っているが、それでも排便が見られない方は医師と相談し下剤等使用してコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の日時は決まっているが、本人の状態や状況、希望に配慮し入浴している。そして楽しんで入浴できるよう入浴剤の色を自分で決めて頂けるような工夫もしている。	職員二人で介助する方が若干名で、その他の方は一部介助である。少なくとも週に2回入浴できるようになっており、それ以外の希望時も入浴できるようにしている。入浴を拒否される方には時間をおいて誘ったり、日にちを変えて誘ったりして入浴していただいている。昨年、町の温泉施設での入浴を楽しまれた利用者もおり、中には家族と温泉に出掛ける方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に寝て頂けるよう就寝時間は決めていない。日中も、好きな時に好きな場所で休息出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬をいつ飲んでいるのか誰でも分かるよう一覧にして置いてある。薬の副作用もカルテを見ればすぐ分かるようになっていて服薬後の状態変化も何か変わった事があればすぐ報告する体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員が出来るだけ役割を持てるようにしている。その中で、それぞれの能力に応じた事をして頂いたり、気分転換になる事を楽しんで行えるような取り組みを考え行なっている。		

グループホーム縁

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を肌で感じて頂けるように、天気の良い日はドライブに出掛けられるよう努めている。その時々で本人の希望があれば出来る限りその場所に出掛けられるように支援している。	日常的にはドライブや買い物、散歩などを行っている。年間の外出計画もあり、足湯や諏訪湖、お花見、回転寿司などへ出掛けしている。また誕生日には利用者とプレゼントを買いに出掛けたり、好きな場所へ出掛けたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望しご家族が了承している方は、少額のお金を所持している。ご家族より小口現金をお預かりしているので、買い物などに出掛けた時ご本人が購入したいとの希望があればそこからお金を出しご自分で購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族の了解の下ご希望があれば常に行えるようになっていく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節のお花を飾ったり、季節の物を飾る事で、四季を感じて頂けるようにしている。食事をするテーブルに植物を置かれ育てている方もいる。生活する場が常に居心地良く過ごせるように努めている。	玄関を入ると雑飾りがあり、季節を感じる事ができた。ホールや廊下は広く、窓から十分な光が差し込んでいた。暖房設備はエアコンで、暖かく感じられた。ペランダは広く、夏にはバーベキューを行ったという。トイレは車いすの方でも十分な広さがあり、浴室は3方向から介助できる仕様である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者それぞれが自分の居場所があり、日中はその場所でゆったり過ごし、時に他のご利用者の方とお話しをしたり、テレビを楽しまれたりしながら過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の落ち着く空間であるように、ご家族様に協力して頂きながら、懐かしい家具や好きな飾り付けを自由にして頂いている。また、居室内が常に清潔であるように掃除もこまめに行うよう努めている。	空調はエアコンで床はフローリングである。備え付けのクローゼットがあり、壁には利用者の集合写真や作品などが飾られていた。居室にはなじみの物が多く置かれ、中にはパターゴルフのセットを置いている方もおり、知人が来訪した際に楽しめるようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	出来る限り自立した生活が送れるよう、その時々のご利用者の状態に応じた関わりを行うようにしている。		